

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019068

International filing date: 21 December 2004 (21.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-424744
Filing date: 22 December 2003 (22.12.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 24 February 2005 (24.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

24.12.2004

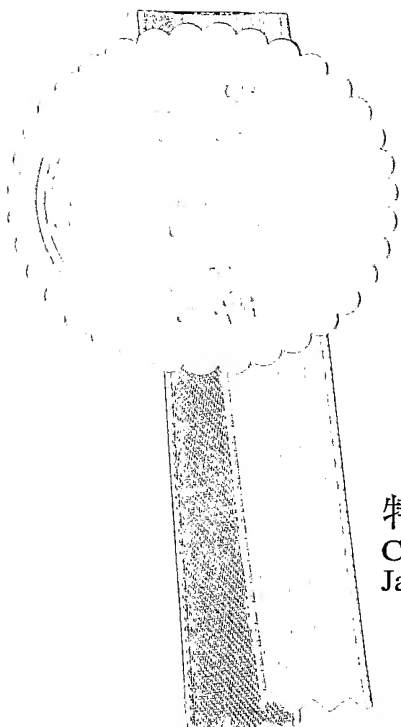
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 2 月 2 2 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 4 2 4 7 4 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 4 2 4 7 4 4]

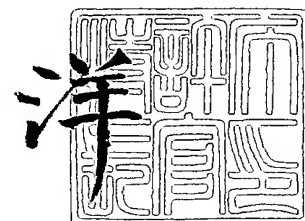
出 願 人 サ ッ ポ ロ ビ ール 株 式 会 社
Applicant(s):



特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

2 0 0 5 年 2 月 1 0 日

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 SP510-1391
【提出日】 平成15年12月22日
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【国際特許分類】 A23L 1/0526
A23L 1/105
A23L 1/227

【発明者】
【住所又は居所】 群馬県新田郡新田町木崎 3 7 - 1 サッポロビール株式会社 バ
イオリソース開発研究所内
【氏名】 木原 誠

【発明者】
【住所又は居所】 群馬県新田郡新田町木崎 3 7 - 1 サッポロビール株式会社 バ
イオリソース開発研究所内
【氏名】 岡田 吉弘

【発明者】
【住所又は居所】 群馬県新田郡新田町木崎 3 7 - 1 サッポロビール株式会社 バ
イオリソース開発研究所内
【氏名】 石川 修

【発明者】
【住所又は居所】 群馬県新田郡新田町木崎 3 7 - 1 サッポロビール株式会社 バ
イオリソース開発研究所内
【氏名】 伊藤 一敏

【特許出願人】
【識別番号】 303040183
【氏名又は名称】 サッポロビール株式会社

【代理人】
【識別番号】 100070150
【弁理士】
【氏名又は名称】 伊東 忠彦

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 002989
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

食品の原料に麦類加工品を含み、該食品の製造工程段階の少なくとも 1 段階において製造条件を制御することにより機能性成分の含有量を増加させた食品。

【請求項 2】

前記製造工程段階は、発酵工程であることを特徴とする請求項 1 に記載の食品

【請求項 3】

前記製造工程段階は、熟成工程であることを特徴とする請求項 1 に記載の食品

【請求項 4】

前記麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかであることを特徴とする請求項 1 乃至 3 に記載の食品。

【請求項 5】

原料に麦類加工品を含む食品の製造方法であって、該食品の製造工程段階の少なくとも 1 段階において製造条件を制御することにより機能性成分含有量を増加させることを特徴とする食品の製造方法。

【請求項 6】

前記製造工程段階は、発酵工程であることを特徴とする請求項 5 に記載の食品の製造方法。

【請求項 7】

前記製造工程段階は、熟成工程であることを特徴とする請求項 5 に記載の食品の製造方法。

【請求項 8】

前記麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかであることを特徴とする請求項 5 乃至 7 に記載の食品の製造方法。

【請求項 9】

原料の一部に麦類加工品を用いたパンであって、該麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかであり、該麦類加工品を含むパン生地が発酵段階で発酵温度を所定温度に制御することにより機能性成分含有量を増加させたパン。

【請求項 10】

原料の一部に麦類加工品を用いたパスタであって、該麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかであり、該麦類加工品を含むパスタ生地が熟成段階で熟成温度を所定値に制御することにより機能性成分含有量を増加させたパスタ。

【請求項 11】

麦類加工品粉末の配合比を 20% 乃至 50% で製造したうどんであって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎したことを特徴とするうどん。

【請求項 12】

麦類加工品粉末の配合比を 20% 乃至 50% で製造したそばであって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎したことを特徴とするそば。

【請求項 1 3】

麦類加工品粉末を使用した揚げ物食品であって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかを粉砕したことを特徴とする揚げ物食品。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 機能性成分含有量の高い食品並びにそれらの製造方法

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、遊離アミノ酸、食物繊維等の機能性成分を豊富に含む麦芽等の麦類加工品を食品原料の一部として食品を製造し、これらの成分の含有量を高めた食品に関する。より詳細には、食品の製造段階で機能性成分の含有量を増加させた食品およびそれらの食品の製造方法に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

近年、アミノ酸や食物繊維等の機能性成分を原料の一部あるいは食品添加物として使用した食品が、健康食品への関心が高まる中、注目され、これらを含む新商品も発売されている。

アミノ酸は様々な機能を有することが報告されており、これを使用することにより、食品における機能性の向上や品質の向上が可能となる。例えば、バリンは各種食品の風味改善を目的として利用されている。また、近年では健康に対する消費者の関心の高さから、様々なアミノ酸を含有する機能性食品が開発され、市販されている。

【0 0 0 3】

また、最近注目されている、ギャバ（GABA、すなわちガンマアミノ酪酸）は自然界に広く分布しているアミノ酸の一種で分子式は $\text{NH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{COOH}$ である。ギャバは、生体内において、抑制系の神経伝達物質として作用することが知られている。また、血圧降下作用、精神安定作用、腎、肝機能改善作用、アルコール代謝促進作用などが知られている。

【0 0 0 4】

また、食物繊維は整腸作用や血糖値の上昇抑制作用など様々な機能性を有し、食物繊維を配合した飲料水等が製品化されている。

【0 0 0 5】

これら機能性成分を豊富に含む食品素材としては、発芽玄米等穀類を発芽させた穀類加工品が従来より知られている（特許文献1，2を参照）。

【0 0 0 6】

例えば、ギャバについては茶碗一杯程度の発芽玄米80gから10mg程度摂取できるといわれている（特許文献1を参照）。また、雑穀または雑穀を含む穀類の発芽によりアラニンとギャバを富化させた食品素材または食品もある（特許文献2を参照）。

【0 0 0 7】

一方、穀類の中で麦類については、小麦、ライ麦はパン、蕎麦、うどん、パスタ等の食品原料として広く使用されており、また、大麦についてはこれを発芽させて、いわゆる麦芽に加工してビール、発泡酒、ウイスキー等の醸造用原料として用いられて他、麦芽を粉碎した麦芽粉はパン製造時の発酵促進に用いられている（例えば非特許文献1を参照）。

【0 0 0 8】

また、機能性成分を含む食品素材としても、発芽小麦は機能性成分としてアミノ酸を含有すること、えん麦は植物繊維として β -グルカンを含有すること、大麦は発芽あるいは麦芽の状態で遊離アミノ酸、食物繊維（ β -グルカン）の機能性成分を含有することが知られている。

【0 0 0 9】

しかしながら、本願発明者の研究によると、麦類種子を水又は温水に浸漬処理したもの、発芽麦あるいは麦芽等の麦類加工品を原料の一部又は食品添加物として加えた場合、その使用量あるいは当該食品の製造工程において処理温度等の条件によって機能性成分の含有量に増減を生じることが確認された。また、個々の機能性成分によって増減の傾向が異なる（即ち、機能性成分Aは含有量が増加するが、機能性成分Bは減少している）場合があり、含有量を高めたい機能性成分に応じて最適な製造条件を設定する必要があることが

確認された。また、麦類加工品中には各種の酵素が存在し、使用される食品によってはそれら酵素の活性が食品本来の物性及び品質を変化させてしまうことがあるため、それら酵素の活性を抑制する必要があった。

【0 0 1 0】

これらの問題は、大麦のみに限らず、麦類（小麦、ライ麦、えん麦、ライ小麦）の麦芽に共通する問題点である。

【特許文献1】特開 2 0 0 3 - 2 5 0 5 1 2 号公報

【特許文献2】特開 2 0 0 3 - 1 5 9 0 1 7 号公報

【非特許文献1】Briggs, Malts and Malting, 1998, p.9

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 1 1】

したがって、本発明は上述に鑑みてなされたものであり、麦類加工品を食品原料として利用することにより、食品中のギャバやその他の遊離アミノ酸等機能性成分含有量を増加させた食品の提供、およびそれら食品の製造方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0 0 1 2】

即ち、上記目的は、請求項 1 に記載されるが如く、食品の原料に麦類加工品を含み、該食品の製造工程段階の少なくとも 1 段階において製造条件を制御することにより機能性成分の含有量を増加させた食品により達成される。

【0 0 1 3】

請求項 1 に記載の発明によれば、食品の原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、例えば、アミノ酸を添加物として使用することなしに、該食品の製造工程段階の少なくとも 1 段階においてギャバや遊離アミノ酸などの機能性成分含有量を増加させた食品を提供することができる。

【0 0 1 4】

請求項 2 にかかる発明は、請求項 1 の発明において、前記製造工程段階は、発酵工程であることを特徴とする。

【0 0 1 5】

請求項 2 に記載の発明によれば、前記製造工程での発酵段階で、例えば、遊離アミノ酸またはギャバなどの機能性成分含有量を増加させることができる。つまり、食品の原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、遊離アミノ酸またはギャバを添加物として使用することなしに、遊離アミノ酸またはギャバなどの機能成分含有量が高い、例えば、パンなどその製造工程段階に発酵段階を有する食品を提供することができる。

【0 0 1 6】

請求項 3 にかかる発明は、請求項 1 の発明において、前記製造工程段階は、熟成工程であることを特徴とする。

【0 0 1 7】

請求項 3 に記載の発明によれば、前記製造工程での熟成段階で、例えば、遊離アミノ酸またはギャバなどの機能性成分含有量を増加させることができる。つまり、食品の原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、遊離アミノ酸またはギャバを添加物として使用することなしに、遊離アミノ酸またはギャバなどの機能成分含有量が高い、例えばパスタなどその製造工程段階に熟成段階を有する食品を提供することができる。

【0 0 1 8】

請求項 4 にかかる発明は、請求項 1 乃至 3 の発明において、前記麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれかであることを特徴とする。

【0 0 1 9】

請求項 4 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類

種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一の麦類加工品を使用することによって、例えば、アミノ酸を添加物として使用することなしに、該食品の製造工程段階の少なくとも1段階においてギャバや遊離アミノ酸などの機能性成分含有量を増加させた食品を提供することができる。

【0020】

請求項5にかかる発明は、原料に麦類加工品を含む食品の製造方法であって、該食品の製造工程段階の少なくとも1段階において製造条件を制御することにより機能性成分含有量を増加させることを特徴とする食品の製造方法を提供する。

【0021】

請求項5に記載の発明によれば、原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、該食品の製造工程段階少なくとも1段階において、例えばアミノ酸を添加物として使用することなしに、ギャバや遊離アミノ酸などの機能性成分含有量を増加させることができる、食品の製造方法を提供することができる。

【0022】

請求項6にかかる発明は、請求項5の発明において、前記製造工程段階は発酵工程であることを特徴とする。

【0023】

請求項6に記載の発明によれば、前記製造工程での発酵段階で機能性成分、例えば遊離アミノ酸またはギャバ含有量を増加させることができる。つまり、食品の原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、アミノ酸またはギャバを添加物として使用することなしに、遊離アミノ酸やギャバなどの機能性成分含有量が高い食品の製造方法を提供することができる。

【0024】

請求項7にかかる発明は、請求項5の発明において、前記製造工程段階は熟成工程であることを特徴とする。

【0025】

請求項7に記載の発明によれば、前記製造工程での熟成段階で機能性成分、例えば遊離アミノ酸またはギャバ含有量を増加させることができる。つまり、食品の原料に麦類加工品、例えば大麦麦芽を含むことによって、アミノ酸またはギャバを添加物として使用することなしに、遊離アミノ酸やギャバなどの機能性成分含有量が高い食品の製造方法を提供することができる。

【0026】

請求項8にかかる発明は、請求項5乃至7の発明において、前記麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一であることを特徴とする。

【0027】

請求項8に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一の麦類加工品を使用することによって、例えば、アミノ酸を添加物として使用することなしに、該食品の製造工程段階の少なくとも1段階においてギャバや遊離アミノ酸などの機能性成分含有量を増加させた食品の製造方法を提供することができる。

【0028】

請求項9にかかる発明は、原料の一部に麦類加工品を用いたパンであって、該麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一であり、該麦類加工品を含むパン生地が発酵段階で発酵温度を所定温度に制御することにより機能性成分含有量を増加させたパンを提供する。

【0 0 2 9】

請求項 9 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一の該麦類加工品を含むパン生地が発酵段階で発酵温度を所定温度に制御することによって、例えばギャバなどの機能性成分含有量を増加させたパンを提供できる。

【0 0 3 0】

請求項 1 0 にかかる発明は、原料の一部に麦類加工品を用いたパスタであって、該麦類加工品は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一であり、該麦類加工品を含むパスタ生地の熟成段階で熟成温度を所定値に制御することにより機能性成分含有量を増加させたパスタを提供する。

【0 0 3 1】

請求項 1 0 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一の該麦類加工品を含むパスタ生地の寝かせ工程、つまり熟成段階で熟成温度を所定値に制御することによって、例えばギャバなどの機能性成分含有量を増加させたパスタを提供できる。

【0 0 3 2】

請求項 1 1 にかかる発明は、麦類加工品粉末の配合比を 2 0 % 乃至 5 0 % で製造したうどんであって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎したことを特徴とするうどんを提供する。

【0 0 3 3】

請求項 1 1 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎した麦類加工品粉末を 2 0 % 乃至 5 0 % の配合比で製造することにより、例えばギャバや他の遊離アミノ酸などの機能性成分に富むうどんを提供できる。

【0 0 3 4】

請求項 1 2 にかかる発明は、麦類加工品粉末の配合比を 2 0 % 乃至 5 0 % で製造したそばであって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎したことを特徴とするそばを提供する。

【0 0 3 5】

請求項 1 2 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎した麦類加工品粉末を 2 0 % 乃至 5 0 % の配合比で製造することにより、例えばギャバや他の遊離アミノ酸などの機能性成分に富むそばを提供できる。

【0 0 3 6】

請求項 1 3 にかかる発明は、麦類加工品粉末を使用した揚げ物食品であって、該麦類加工品粉末は、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎したことを特徴とする揚げ物食品を提供する。

【0 0 3 7】

請求項 1 3 に記載の発明によれば、麦類種子を水若しくは温水に浸漬したもの、又は麦類種子を発芽日数に応じて発芽させた発芽麦あるいは麦類種子を水若しくは温水に浸漬し

発芽させて後、乾燥若しくは焙燥させた麦芽のいずれか一を粉碎した麦類加工品を例えば 50% のから揚げ粉に配合することによって、その配合比で調理した食品に旨み成分であるアミノ酸を豊富に含有するため、旨みがより一層増し、麦類加工品中にあるたんぱく質分解酵素の作用により、食感のジューシーな揚げ物食品を提供できる。

【発明の効果】

【0038】

本発明の効果は、麦芽等麦類加工品を食品原料として利用することにより、製造工程段階の少なくとも 1 段階で温度等の製造条件を制御することにより任意の機能性成分含有量を増加させた食品が提供でき、およびその製造方法を提供できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0039】

本発明者らは、麦類加工品を様々な食品原料として利用することにより、食品中の機能性成分含有量を増加させて、機能性成分含有量が高い食品とその製造方法を提供することを可能とした。

【0040】

本発明は、次の 2 段階から構成され、麦類加工品を含む様々な食品を製造することと、麦類加工品を原料に配合することにより、各種食品の製造工程で遊離アミノ酸含有量を増加させることである。以下、各段階について記述する。

【0041】

麦類加工品を原料に配合し、パン、パスタ、うどん、そば、クッキーなどを製造した。パンでは、従来の配合比率 (0.09 乃至 0.36%) (非特許文献 1 を参照) を大きく上回る 20% まで配合比率を高めた。またその他の食品では、麦類加工品 20 乃至 50% の配合比率で、それぞれの食品の製法にしたがって、食品を製造した。いずれの試作品においても、それぞれ食品としての特性を保持した食品を製造することが可能であることを明らかとなった。

【0042】

次いで、麦類加工品を原料に配合することにより、食品の製造工程で機能性成分含有量を増加させることを行った。使用する麦類加工品は、一例として大麦麦芽 (品種: はるな二条) を使用した。当該麦芽の製造方法は、大麦種子の水又は温水への浸漬処理、発芽処理 (6 日間) を経て (両処理とも温度 15℃ で行なった)、得られたサンプルを乾燥処理したものを原料として用いた。

【0043】

なお、大麦麦芽を原料に配合することにより、食品の製造工程で機能性成分含有量を増加させることに先立ち、麦芽製造工程中における種子及び麦芽の機能性成分 (遊離アミノ酸) 含有量を継続的に測定した。麦芽以外の大麦加工品については、大麦種子を水又は温水で浸漬処理したもの (以下「浸水処理」という)、及び更に発芽させたもの (発芽処理時間 1 日 ~ 6 日) を夫々サンプルとし、これを凍結乾燥した。更に各サンプルを粉碎後、50 mg/800 μ l にて一晚 (5℃) 振とうし、アミノ酸分析装置 (日本電子社製) を用いて機能性成分含有量を測定した。

【0044】

測定の結果、プロリンなど殆どの遊離アミノ酸は、発芽 1 日目以降、急激に含有量が増加した。一方、ギャバ含有量は浸漬処理サンプルが最も高かった。したがって、大麦種子の加工の程度により、目的の遊離アミノ酸含有量を増加させた大麦加工品を得て、食品の原料として使用することができる。特に、ギャバ含有量を増加する目的において、浸漬処理のみの大麦種子加工品を原料として用いてもよい。

【0045】

また同様に、上記各大麦加工品中のたんぱく質分解酵素活性の変化を継続的に測定した。その結果、たんぱく質分解酵素活性は発芽 1 日処理の加工品がより顕著に増加し、発芽 3 日処理でピークに達することが認められた。食物繊維分解酵素活性についても、同様の傾向が認められた。これらの結果は、浸漬処理のみの加工品のギャバ含有量が高いが、たん

ばく質分解酵素活性や食物繊維分解酵素活性は低い傾向にあることを示している。したがって、浸漬処理加工品を食品の原料または食品素材として使用することにより、食品の製造工程におけるたんぱく質や食物繊維の低分子化を抑制し、かつ遊離アミノ酸含有量を増加させた食品を製造することが可能となる。

【0046】

本発明では、発芽後6日目の発芽大麦と浸漬処理大麦を原料に配合して、食品の製造工程で遊離アミノ酸を増加させ、食品中のギャバやその他の遊離アミノ酸含有量が高い食品を製造した。それぞれの食品の製造工程における遊離アミノ酸含有量の変化を測定したところ、ギャバや一部の遊離アミノ酸は、配合比率を高めるほど、発酵工程において含有量の増加率が高くなることが明らかとなった。また一部の遊離アミノ酸含有量は、従来の配合比率(0.09乃至0.36%)では発酵工程において減少するが、大麦加工品の配合比率を高めることにより、発酵工程で増加することも明らかとなった。

【0047】

本発明により、大麦加工品を様々な食品原料として利用することにより、食品中における遊離アミノ酸含有量、好ましくはギャバ含有量を高めることが可能となる。

【0048】

以下に実施例を示して本発明を詳細に説明する。

【実施例1】

【0049】

大麦麦芽を原料としたパン製造工程における遊離アミノ酸含有量の変化。

【0050】

強力粉に上記大麦麦芽を粉末にしたもの(以下「麦芽粉」という)を0%、0.36%、10%、20%配合し、従来の製パン工程によって、ロールパンを製造した。配合率0.36%は、前述のようにパン製造時に一般的に使用される麦芽粉配合率である(非特許文献1参照)。これらの原料をもとにパンを製造し(図1)、パン製造工程におけるギャバやその他のアミノ酸含有量の変化を測定した(図2)。

【0051】

図1は麦芽粉配合比率の異なるパンを示す。左下のパンは麦芽粉が0%、左上は0.36%、右下は10%、右上は20%を配合したパンである。

【0052】

図2のグラフ中の(計算値)は、例えばギャバであれば、強力粉のギャバ含有量は1.8mg/100g、麦芽粉のギャバ含有量は13.9mg/100gなので、 $(\text{強力粉}\% \times 1.8/100) + (\text{麦芽粉}\% \times 13.9/100) = (\text{計算値})$ として図示した。分析の結果、麦芽粉配合比率を高めるほど、遊離アミノ酸含有量も高くなったが、ギャバなど一部の遊離アミノ酸は発酵過程において含有量が増加し、麦芽粉の配合比率を高めるほどその増加率が高くなることが明らかとなった。またバリンやロイシンなどでは、麦芽粉配合比率0.36%までは発酵工程中に含有量が減少したが、麦芽粉配合比率を高めることにより発酵工程中で減少を抑制するのみならず、増加することが明らかとなった。

【実施例2】

【0053】

浸水処理のみ的大麦加工品を原料としたパン製造工程における遊離アミノ酸含有量の変化。

【0054】

浸水処理のみ的大麦加工品を用いて大麦粉を製造した。当該大麦粉の遊離アミノ酸含有量を測定したところ、他的大麦加工品(発芽麦、麦芽)よりもギャバの含有量が最も高いことが分かった。したがって、当該麦芽粉を強力粉に10%、20%配合後、従来の製パン工程においてロールパンを製造し(図3)、製造工程におけるギャバ含有量の変化を測定した(図4)。

【0055】

図3は、浸水処理のみ的大麦加工品を用いたパンを示し、左は10%配合、右は20%配合し

たパンである。図4は、当該大麦加工品を用いたパン製造工程中のギャバ含有量を示す。

【0056】

原料のギャバ含有量は強力粉1.9mg/100g、麦芽粉30.4mg/100gなので、 $(\text{強力粉}\% \times 1.9/100) + (\text{麦芽粉}\% \times 30.4/100) = \text{原料計算値}$ として図示した。製造工程におけるギャバ含有量測定の結果、いずれの配合比でもパン製造工程においてギャバ含有量は増加したが、実施例1と同様、配合比率を高めるほどその増加率が高くなった。また、実施例1と実施例2を麦芽20%配合のパンで比較すると、当該大麦加工品を原料とした方が、わずかではあるがギャバ含有量が高いことがわかる。

【0057】

また本大麦加工品を50%配合しパンを製造したが、製造工程中におけるグルテンの低分子化はほとんど認められず、パンとしての特性を保持していた。さらに20%配合したピザ生地を用いてピザを製造したが、歯ごたえがあり、かつ生地内部はしっとりとしたピザを製造することができた。

【実施例3】

【0058】

パン製造工程における発酵温度、発酵時間によるパン中の遊離アミノ酸含有量の変化。

【0059】

発酵温度を30℃、40℃、50℃の条件でパン生地を発酵させ、発酵工程前後における遊離アミノ酸含有量の変化を測定した。また同時に、40℃発酵時における発酵時間の影響についても検討調査した。測定の結果、各アミノ酸ごとに発酵温度、発酵時間が及ぼす影響が異なることが明かとなった。発酵前遊離アミノ酸含有量を100としたときの発酵後生地中の遊離アミノ酸含有率において、ギャバ、ロイシン、チロシン（図5ではそれぞれGABA、Leu、Tyrとして表記）を例として図示（図5）すると、ギャバであれば、発酵温度50℃で含有率は最小となったが、ロイシンやチロシンでは発酵温度50℃で含有率は最大となった。また発酵時間の影響については、発酵時間を長くする（図の40℃における棒グラフの場合において2倍の長さの発酵時間）ことにより、ギャバやロイシンは減少傾向にあったが、チロシンでは増加傾向にあった。以上の結果は、発酵工程における温度や時間を制御することにより、パン中の目的となる機能性成分を増加させたり減少させたりすることを抑制できるとの可能性を示唆するものであると考えられる。またパン以外のその他の食品についても、製造工程の一部、例えば熟成工程における温度や時間の制御により、同様の効果が期待される。

【実施例4】

【0060】

パスタ製造における遊離アミノ酸含有量の変化

実施例1と同様に、大麦麦芽を粉碎した麦芽粉を配合後、従来の製法でパスタを製造し、生地の「寝かせ工程（以下「熟成工程」という）」におけるギャバ含有量の変化を測定した。熟成工程における温度は通常の製法では常温であるが、本実施例では45℃とし、原料配合比は強力粉40%、薄力粉40%、麦芽粉20%とした。製造に用いた原料のギャバ含有量は強力粉1.9mg/100g、薄力粉2.4mg/100g、麦芽粉25.6mg/100gなので、 $(\text{強力粉}40\% \times 1.9/100) + (\text{薄力粉}40\% \times 2.4/100) + (\text{麦芽粉}20\% \times 25.6/100) = \text{原料計算値}$ として図示した。実験の結果、麦芽粉を配合し、熟成工程を経ることにより、パスタ生地中のギャバ含有量が増加することが明かとなった（図6）。図6は、パスタ製造工程におけるギャバ含有量の経時的変化を示す。また、グルタミン酸を除くその他の遊離アミノ酸含有量も、ギャバ同様、「熟成工程」により含有量が増加した。さらに実施例2で用いた大麦加工品を30%配合したパスタを製造した。その結果、パスタとしての特性を保持していることが確認された。またパン同様、大麦麦芽を使用したパスタと比較してギャバ含有量が高いことが期待される。

【実施例5】

【0061】

浸水処理大麦加工品を原料に配合したうどん、そばの製造

実施例 2 と同様に、浸水処理大麦加工品を粉碎した大麦粉を用いて、従来の製法でうどんを製造した。中力粉に対してその粉配合比を 0%、20% とし、比較実験を行なった。20% 配合した場合、色合い以外の生地特性に大きな差異は見られず、また茹で上がり後も、うどんとしての特性を保持していた（図 7）。さらに当該大麦粉の配合比率を 50% とし、うどんを製造したが、20% 配合比と同様、うどんとしての特性を有していた。

【0 0 6 2】

図 7 は、当該大麦粉の配合比 0% と 20% のうどんにおける外観特性を示す。左上は大麦粉 0% のうどん（麺切り後）、左下は大麦粉 2 0 % のうどん（麺切り後）、右上は大麦粉 0 % のうどん（茹で上げ後）、右下は大麦粉 2 0 % のうどん（茹で上げ後）を示す。したがって、ギャバやその他の遊離アミノ酸を豊富に含有するうどんが製造できる。

【0 0 6 3】

また、そばについても、そば粉 60% に中力粉 40% を配合したものと、そば粉 60% に中力粉 20%、大麦粉 20% 配合したものを比較したが、生地特性に差はみられず、大麦粉 20% 配合比においても、そばとしての特性を保持していた。さらに大麦粉の配合比率を 50% とし、中力粉 30%、そば粉 20% でそばを製造したが、20% 配合比と同様、そばとしての特性を有していた。

【0 0 6 4】

さらに新規な麺として、中力粉 50% と大麦粉 50% を原料として、従来のそばの製造法でそば風麺を製造した。その結果、そば粉を有しないが、色合いなどの外観はそばと同一の特性を有する、そば風麺を製造することに成功した（図 8）。図 8 はそば風麺の外観特性を示す。そば風麺は、そば粉を全く使用していないので、そばアレルギーの心配がなく、さらにギャバやその他遊離アミノ酸を豊富に含有することを特徴とする。

【実施例 6】

【0 0 6 5】

浸水処理した大麦加工品を原料に配合した菓子類の製造
実施例 2 と同様に、大麦粉を用いて、従来の方法でロールケーキを製造した。大麦粉を 20% 配合して製造したロールケーキは、菓子としての特性を保持していた。また大麦粉 100% もしくは 20% 配合しクッキーを製造した。クッキーもロールケーキ同様、菓子としての特性を保持していた。

【実施例 7】

【0 0 6 6】

発芽処理大麦粉を利用した揚げ物食品の製造

発芽日数を制御した発芽処理大麦粉 1 0 0 % または当該大麦粉をから揚げ粉に 50% 配合後、従来通りの手法で鶏のから揚げを調理し、から揚げ粉 100% 使用のから揚げと比較した。試食の結果、当該大麦粉を使用したから揚げは、旨味成分となるアミノ酸を豊富に含有しているため、旨味がより一層感じられた。また、当該大麦粉は肉が柔らかくなるから揚げ粉（B 社製品：たんぱく質分解酵素配合）と同等のたんぱく質分解酵素活性を有しており（図 9）、から揚げ粉に配合することにより、ギャバやその他遊離アミノ酸を豊富に含有するだけでなく、たんぱく質分解酵素が作用し、食感のジューシーなから揚げとなることが期待される。

【0 0 6 7】

以上本発明の好ましい実施例について詳述したが、本発明はかかる特定の実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明の趣旨の範囲内において、種々の変形・変更が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0 0 6 8】

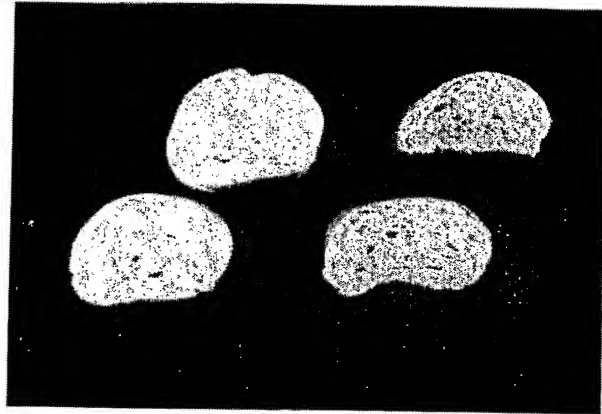
【図 1】麦芽粉配合比率の異なるパンを示す図である。

【図 2】麦芽粉配合比率の異なるパン製造工程における遊離アミノ酸含有量の変化を示す図である。

【図 3】浸麦工程のみの麦芽を用いたパンを示す図である。

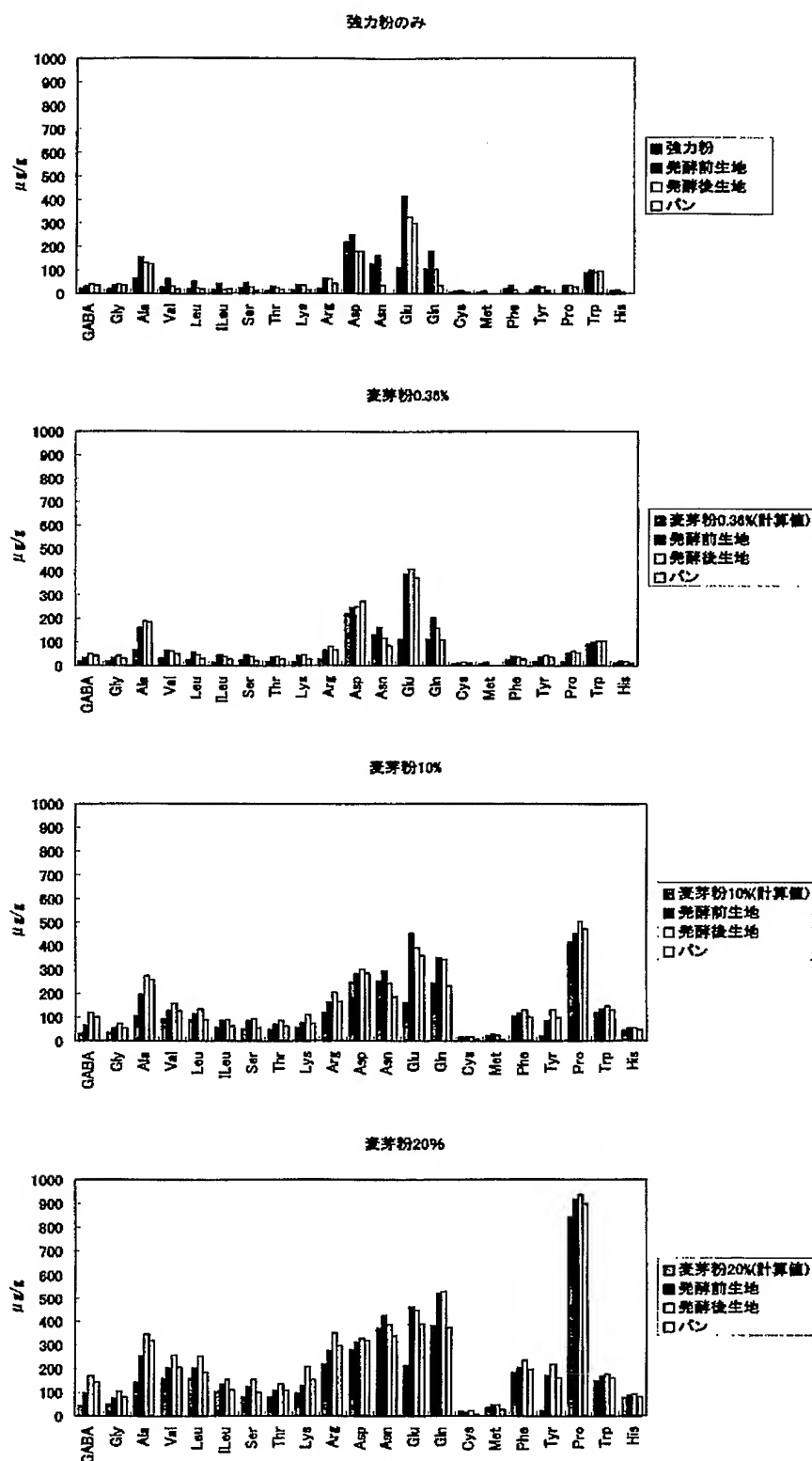
- 【図 4】 浸麦工程のみの麦芽を用いたパン製造工程中のギャバ含有量を示す図である。
- 【図 5】 発酵工程におけるパン生地中の遊離アミノ酸含有量を示す図である。
- 【図 6】 パスタ製造工程におけるギャバ含有量を示す図である。
- 【図 7】 麦芽配合比 0 % と 2 0 % のうどんにおける外観特性を示す図である。
- 【図 8】 そば風麺の外観特性を示す。
- 【図 9】 各種麦芽サンプルにおけるたんぱく質分解酵素の活性を示す図である。

【書類名】 図面
【図 1】



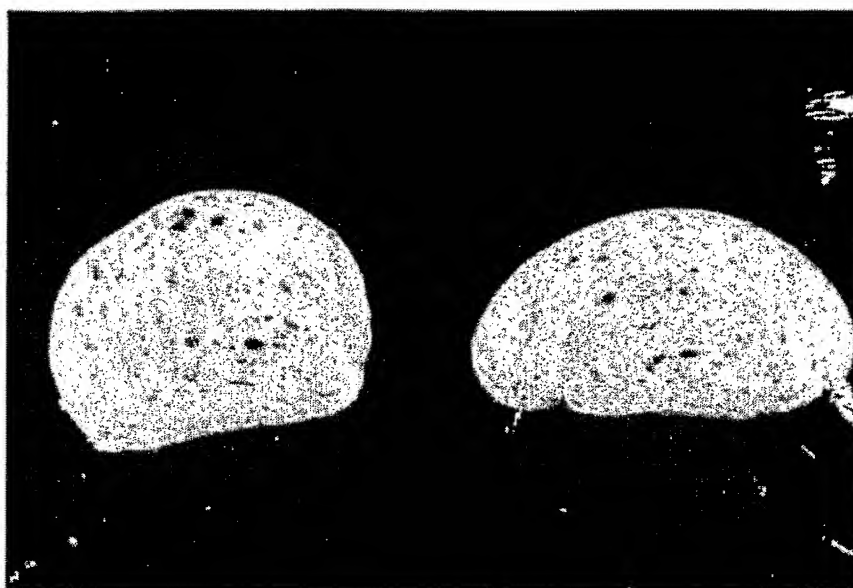
麦芽粉配合比率の異なるパン

【図 2】



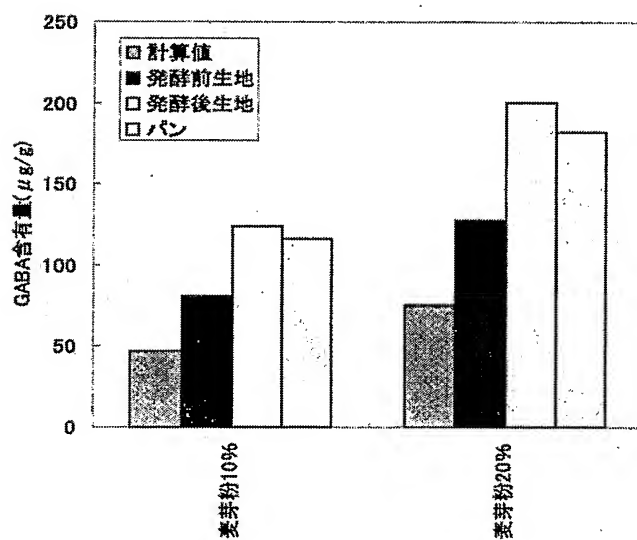
麦芽粉配合比率の異なるパン製造工程における遊離アミノ酸含有量の変化

【図 3】



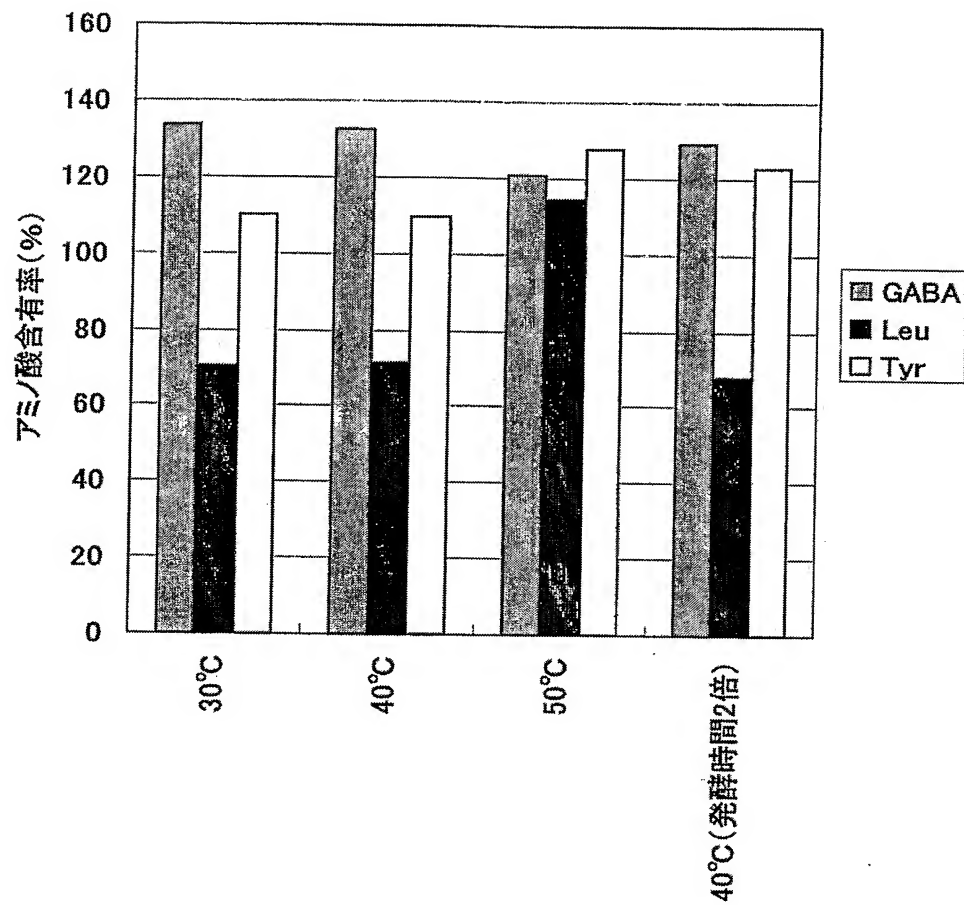
浸麦工程のみの麦芽を用いたパン

【図 4】



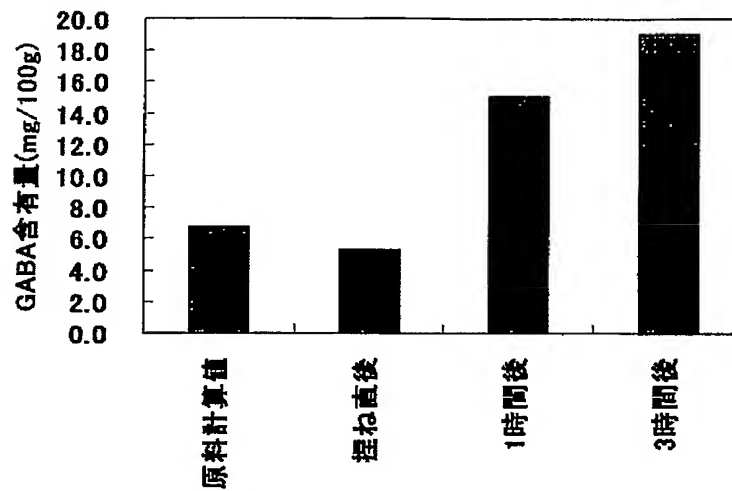
浸麦工程のみの麦芽を用いたパン製造工程中のGABA含有量

【図 5】



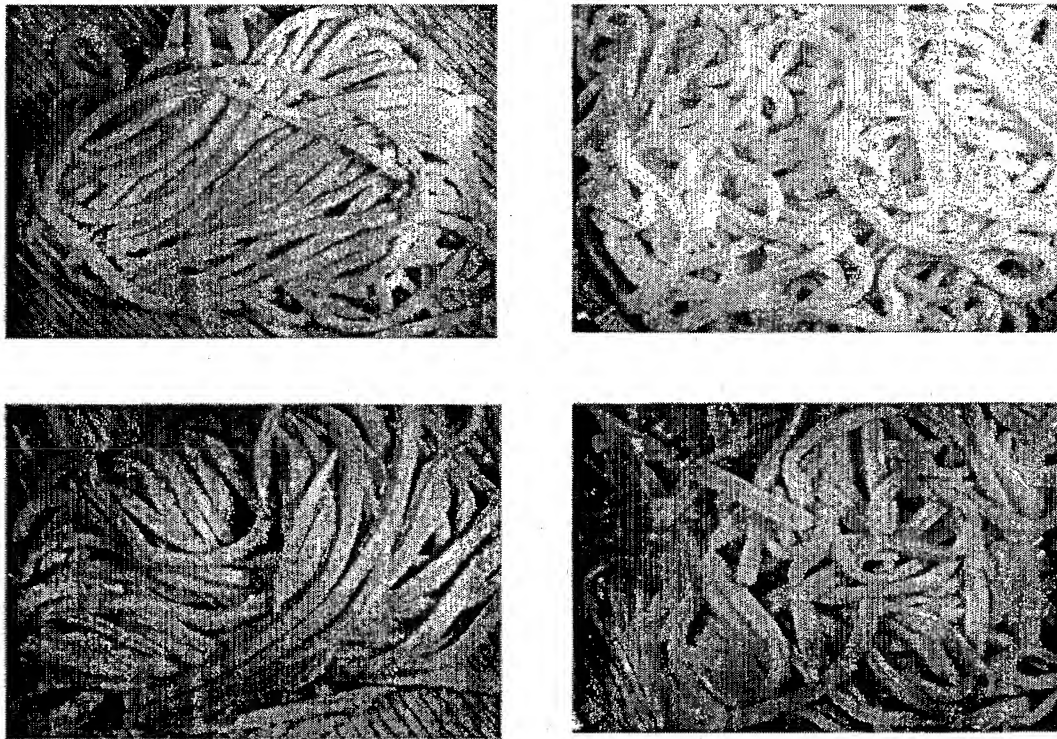
発酵工程におけるパン生地中の遊離アミノ酸含有量

【図 6】



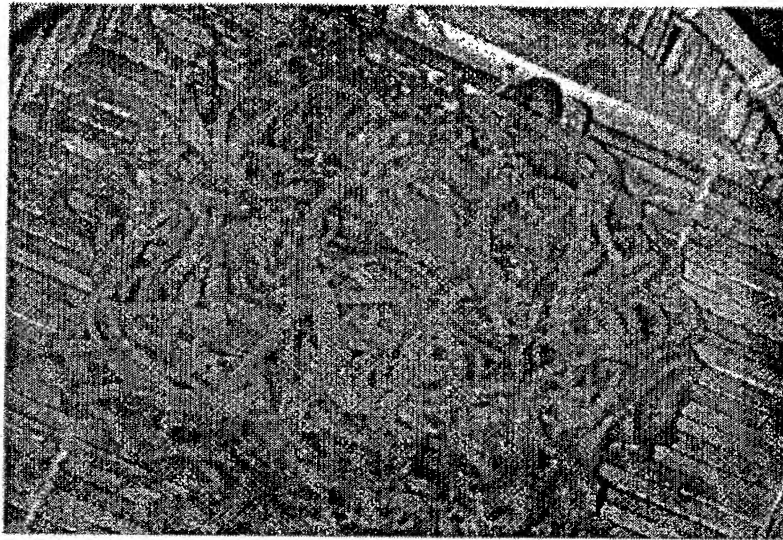
パスタ製造工程におけるGABA含有量の変化

【図 7】



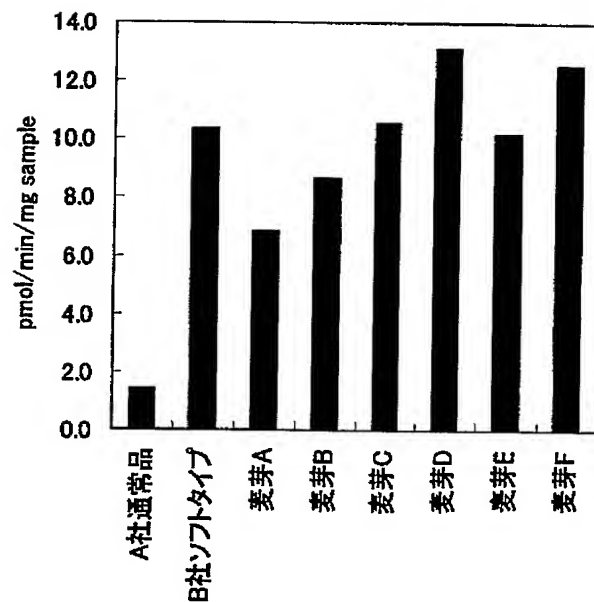
麦芽粉配合比0%と20%のうどんにおける外観特性

【図 8】



そば風麺の外観特性

【図 9】



各種サンプルの蛋白質分解酵素活性

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、麦類種子を水又は温水に浸漬したもの、発芽麦あるいは麦芽等の麦類加工品を食品原料として利用することにより、アミノ酸等の機能性成分を添加物として使用することなしに、食品の製造工程段階で該食品中のギャバや目的とするその他の遊離アミノ酸等機能性成分含有量を増加させて、それら機能性成分の含有量が高い食品の提供、およびそれら食品の製造方法を提供することを目的とする。

【解決手段】 食品の原料に目的とする遊離アミノ酸や食物繊維に応じて発芽日数を制御した麦芽または発芽麦または麦類種子を水又は温水に浸漬したもの等麦類加工品を含むことで製造工程における発酵段階あるいは熟成段階で遊離アミノ酸またはギャバ含有量を増加させることができる。その結果、アミノ酸またはギャバを添加物として使用しない、遊離アミノ酸またはギャバ含有量が高い食品とその製造方法を提供できる。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 3 - 4 2 4 7 4 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 0 3 0 4 0 1 8 3]

1. 変更年月日
[変更理由]

2 0 0 3 年 7 月 1 7 日

新規登録

住 所
氏 名

東京都渋谷区恵比寿四丁目 2 0 番 1 号
サッポロビール株式会社